



愛知県陶磁美術館

AICHI PREFECTURAL CERAMIC MUSEUM

2023年12月1日(金)
愛知県陶磁美術館学芸課
企画普及グループ
担当 鮫島、大槻
電話 0561-84-7474
愛知県民文化局文化部文化芸術課
振興第一グループ
担当 小林、中村
内線 2459、2462
ダイヤルイン 052-954-6183

企画展

AICHI やきもの ざんまい

—愛知県陶磁美術館の名品をあじわいつくす—

会期 2023年12月16日(土)～2024年1月28日(日)

みどころ

- ◇愛知県陶磁美術館と豊川市桜ヶ丘ミュージアムの初めてのコラボ展示！
豊川市で、休館中の愛知県陶磁美術館が誇る名品を御覧いただけます。
- ◇古代から現代まで、「やきもの王国・愛知」ゆかりの名品がずらりと勢揃い。
様々な魅力のあるやきものを、一度にあじわうことができます。
- ◇愛知におけるやきもの歴史入門としても楽しめます。多くの皆様の御来場をお待ちしております。

- 1 会 期 2023年12月16日(土)から2024年1月28日(日)まで
休館日：毎週月曜日(ただし、1月8日(月・祝)は開館)、
年末年始(12月29日(金)～1月3日(水))
- 2 開館時間 午前9時から午後5時まで
- 3 会 場 豊川市桜ヶ丘ミュージアム 第1～第3展示室
(豊川市桜ヶ丘町79-2 電話：0533-85-3775)
- 4 出品件数 約120件(主な展示作品は別紙のとおり)
- 5 観 覧 料 無料
- 6 主 催 豊川市桜ヶ丘ミュージアム、愛知県陶磁美術館

7 関連事業

(1) ワークショップ 愛知の陶芸家の技を体験しよう！

前田正剛「釉薬で描く」^{まへだ せいごう} 蠟^{ろう}抜き^ぬ・釉薬^{ゆうやく}の掛分^{かけわけ}による制作体験

講師：前田正剛氏（陶芸家）

日時：2024年1月20日（土）午後2時から午後3時30分まで

定員：15名（先着順）

2023年12月23日（土）午前9時から電話又は窓口にて申込み

※申込み先は豊川市桜ヶ丘ミュージアム

会場：豊川市桜ヶ丘ミュージアム 第1実習室

参加費：無料

(2) 愛知県陶磁美術館学芸員によるギャラリートーク（展示解説）

愛知のやきものの魅力を楽しく、分かりやすく解説します。（全2回）

日時：2023年12月17日（日） 「古代～近世のやきもの編」

2024年1月28日（日） 「近代～現代のやきもの編」

各日午後2時から（1時間程度）

定員：各回30名程度（当日先着順、事前申込不要）

会場：豊川市桜ヶ丘ミュージアム 第1～第3展示室

参加費：無料

(3) 茶室ミニコンサート「このひとときオカリナの調べを」

日時：2023年12月23日（土）

午前11時30分～、午後1時30分～（40分程度）

演奏：オカリナアンサンブル^{ほけつと}補欠人

定員：各回30名程度（当日先着順、事前申込不要）

会場：豊川市桜ヶ丘ミュージアム 茶室

参加費：無料

8 問合せ先

＜ 愛知県陶磁美術館 ＞

〒489-0965 瀬戸市南山口町234番地 担当 学芸課 鮫島、大槻

電話：0561-84-7474（代表）

ファクシミリ：0561-84-4932

メール：touji@pref.aichi.lg.jp

公式Webページ：<https://www.pref.aichi.jp/touji/>

＜ 豊川市桜ヶ丘ミュージアム ＞

〒442-0064 豊川市桜ヶ丘町79-2 担当 石川、福田

電話：0533-85-3775（代表）

ファクシミリ：0533-85-3776

メール：bunka@city.toyokawa.lg.jp

公式Webページ：<https://www.city.toyokawa.lg.jp/shisetsu/bunkakyoiku/sakuragaokamuseum/>

[主な展示作品]

1



瀬戸

「灰釉蕨手唐草文手付水注」

鎌倉時代（14世紀）

愛知県陶磁美術館 所蔵

きたおおじ ろさんじん

北大路魯山人旧蔵の古瀬戸の名品

模様をスタンプのように押しつける「印花技法」によって、花や蕨手の唐草文など華やかな装飾が施されています。古瀬戸を代表する優品であり、昭和初期には、篆刻や書、陶磁、漆工芸、絵画、料理など様々な分野において独創的な芸術活動を展開した芸術家・北大路魯山人が所蔵していました。

2



犬山

「赤絵花鳥文細水指」

江戸時代後期（19世紀）

愛知県陶磁美術館 所蔵

犬山城下に花開いた・犬山焼

犬山焼は宝暦年間(1751～64年)に始まり、尾張地方で唯一本格的に色絵陶器が焼かれた窯として知られています。京焼風の華やかな色絵意匠が特徴です。本品は、花鳥を主体とした窓絵と四つの割花菱の地文に赤玉が描かれた、犬山焼の典型的な呉州赤絵写の作品です。

3



瀬戸・川本柵吉

「染付雪に子犬図花瓶」

明治時代（19世紀）

愛知県陶磁美術館 所蔵

海外にわたった瀬戸のやきもの、里帰り

青の濃淡のみで雪景色を表現した瀬戸染付の名品です。コロコロとしたかわいい三匹の子犬が雪に戯れる姿が描かれています。

19世紀後半の瀬戸では、国内向けだけでなく多くの輸出用陶磁器を生産していました。川本柵吉は瀬戸で初めて輸出用陶磁器の洋食器を制作しました。

4



瀬戸・テーケー名古屋人形製陶株式会社

ノベルティ「レース人形〈アン王女〉」

1995年

愛知県陶磁美術館 所蔵

細部まで見てほしい レース人形の傑作

瀬戸で生産された陶磁器製のおきものは「瀬戸ノベルティ」と呼ばれ、主に海外へ向けて生産されました。瀬戸ノベルティなど愛知産のやきものは海外でも高い人気を博し、愛知の戦後復興を支える一因となりました。

本作品はテーケー名古屋人形製陶株式会社が制作するレース人形の最高傑作であり、王女が身につける豪華なドレスは、レース部分までやきもので作られています。

5



鈴木五郎(1941-)

「ロスオリベ土瓶」

2003年

愛知県陶磁美術館 所蔵

オリベ 伝統と革新

鈴木が1993年に手がけ始めた「ロスオリベ」は、これまでとは異なる作者独自の織部焼です。

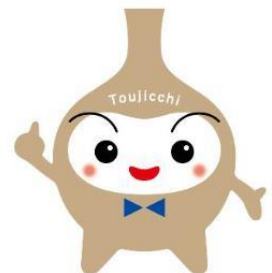
本作は「古田織部がもし飛行機で外国に行ったら何をつくるか?」という自由な発想のもと制作されており、黒・紫・青・朱・黄・緑・ピンクの顔料を使ったポップな色彩と形状が特徴です。胴部には六箇所の窓に鳥、把手には五箇所の渦巻文様が描かれています。

※古田織部(1543-1615)

戦国時代から江戸時代の大名茶人。武家の茶の湯を大成し、織部好みの茶器や作庭など後世に大きな影響を与えた。

※広報用の高精細画像につきましては、愛知県陶磁美術館担当までお問い合わせください。

古代から現代まで、愛知のやきものの魅力が
つまったフルコースをお楽しみください!



当館マスコットキャラクター
とうじっち